

科目名		国語Ⅳ (Japanese Ⅳ)								
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第4学年	経営情報学科	学修	1 単位	必修	講義・演習	前期	45 時間			
担 当 教 員		【常勤】 教授 畑村 学								
学 習 到 達 目 標										
科目の到達目標レベル		①発表者として、收拾した資料を参考に漢詩を読解できる。聴き手としては、他者の資料を読み発表内容及び考察のポイントを理解できる。(読む力) ②レジュメ資料を作成できる。見やすさ分かりやすさを考慮し資料を作ることができる。資料のなかで論理的な文章を書くことができる。発表内容をまとめた図解を書くことができる。(書く力) ③時間配分を考えながら発表の手順を構成できる。聴衆を意識した話し方ができる。本質的具体的な質問をすることができる。質問に対して説得力のある答え方ができる。質問を資料にメモしながら発表を聴くことができる。発表の良い点・悪い点を評価できる。本質的具体的な質問やコメントができる。(話す力・聞く力)								
到達目標 (評価項目)		優れた到達レベルの 目安		良好な到達レベルの 目安		最低限の到達レベルの 目安		未到達レベルの 目安		
到達目標 ①		参考資料を読解し、考察のテーマを3つ以上見つけることができる。 レジュメ資料のポイント、考察内容だけでなく、問題点も理解することができる。		参考資料を読解し、考察のテーマを2つ見つけることができる。 レジュメ資料のポイントや考察内容を理解することができる。		参考資料を読解し、考察のテーマを1つ見つけることができる。 レジュメ資料のポイントを読解することができる。		参考資料の読解ができない。 レジュメ資料を読解することができない。		
到達目標 ②		深い考察をもとに、見た目や構成を工夫してレジュメ資料を作成できる。 ポイントを整理した複雑な図解ができる。		見た目や構成を工夫してレジュメ資料を作成できる。 ポイントを整理した図解ができる。		レジュメ資料を作成できる。 簡単な図解ができる。		レジュメ資料を作成できない。 図解ができない。		
到達目標 ③		図解を有効に使い、話し方を工夫したプレゼンができる。 本質的で具体的な質問がいつもできる。 評価だけでなく、優れたコメントもできる。		図解を有効に使ったプレゼンテーションができる。 本質的で具体的な質問ができる。 良い点・悪い点が評価できる。		聴衆を意識したプレゼンテーションができる。 簡単な質問ができる。 発表の評価ができる。		聴衆を意識したプレゼンテーションができない。 質問ができない。 発表の評価ができない。		
学習・教育到達目標		G①		JABEE基準1 (2)		(f)				
達 成 度 評 価 (%)										
評価方法		中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合										
総合評価割合			30		10	60				100
知識の基本的な理解 【知識・記憶・理解レベル】			○		○	◎				
思考・推論・創造への適用力 【適用・分析レベル】			○		○	◎				
汎用的技能 【論理的思考】						◎				
態度・志向性(人間力) 【 】						◎				
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】										

関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語Ⅲ
教科書	
補助教材等	
学 習 上 の 留 意 点	
○1～3年の間に習得した「話す・聞く・読む・書く・考える」の5つの力を総動員し、未知の資料(漢詩)の読解に全力で取り組み、説得力のある考察を記した資料を作成し、制限時間内で、効果的なプレゼンテーションを行う。 ○プレゼンテーションを行う機会は1回しかないため、担当日に間に合うように早めに準備に取り掛かること。 ○資料の評価が80点をクリアすれば、プレゼンテーションの練習に取り掛かる。 ○事前プレゼンテーションの評価が、授業前日までに80点をクリアすれば、当日プレゼンテーションすることができる。 ○翌週の担当者を優先的に指導する。担当日に間に合わなかったグループは後回しにする。	
担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	
資料の完成までに3～5週間、プレゼンテーションの練習に1週間はかかります。 よって、入学して最も苦勞する授業になるのではないかと思います。覚悟して下さい。 ただし、その分プレゼンテーションをやり終えた後の「達成感」は、ものすごくあります。 期待して下さい。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス①	○シラバスをもとに、授業内容や学習到達目標等を理解できる。 ○効果的なプレゼンテーションの方法について理解できる。 ○資料作成方法について理解できる。 ○図解の方法について理解できる。 ○簡単な図解資料を作成し、それをもとにスピーチやプレゼンテーションができる。	○担当する詩を、畑村研究室や図書館の本、インターネットを利用して探す。 ○簡単なプレゼンテーションを行うために、レポートとして図解資料を作成し、それをもとに授業でプレゼンテーションを行う。
2	ガイダンス②		
3	ガイダンス③		
4	プレゼンテーション①	○自分たちで選んだ漢詩について、詩のテーマや内容を理解し、所定の資料にまとめることができる。 ○漢詩に関して調べたり考えたりしたことを、図解資料にまとめることができる。 ○作成した資料をもとに、効果的なプレゼンテーションができる。 ○他者のプレゼンテーションに対して、本質的で具体的な質問やコメントをすることができる。 なお、プレゼンテーションは、2人1グループで、1週に3～4グループが行う。順番は、ガイダンスの際に決める。 プレゼンテーションの準備は次のような手順で行う。 ○各グループが、漢詩1首を所定の日までに選ぶ。 ○所定の日までに、A4用紙×4枚の資料を完成させる。 ○資料には、漢詩の本文、書き下し文、口語訳、語釈、詩人の紹介、詩題の解説、考察を行う。考察には、考察内容をわかりやすくまとめた図解資料を掲載する。 ○聴く側の学生は、プレゼンテーション後に質問する。質問の内容やレベルは「聴く力」の評価の対象となる。また、「審査用紙」を用いてプレゼンテーションを審査・評価する。 ○プレゼン終了後、発表者は審査用紙の結果を整理し、「まとめプリント」を作成して次の授業までに提出する。	○担当する詩を調査する。 ○プレゼンテーションの資料の作成する。 ○プレゼンテーションの練習をする。 ○プレゼンテーション審査用紙のまとめと、質問に対する回答の準備を行う。 ○他のグループのプレゼンテーションの練習に立ち会い、アドバイスやコメントを行う。 ○授業で出されたレポート課題の作業を行う。
5	プレゼンテーション②		
6	プレゼンテーション③		
7	プレゼンテーション④		
8	プレゼンテーション⑤		
9	プレゼンテーション⑥		
10	プレゼンテーション⑦		
11	プレゼンテーション⑧		
12	プレゼンテーション⑨		
13	プレゼンテーション⑩		
14	プレゼンテーション⑪		
	期 末 試 験		
15	試験返却・解説 まとめ 授業改善アンケートの実施	○テスト内容の確認を行う。 ○半期の学習内容の確認を行う。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間